

地方創生関連交付金事業の 実施状況について

地方創生推進交付金事業	令和01年度実施	3事業
地方創生拠点整備交付金事業	令和01年度実施	2事業
	平成30年度実施	1事業
	平成29年度実施	1事業

令和2年11月

地方創生推進交付金事業及び地方創生拠点整備交付金事業 一覧

地方創生推進交付金事業(ソフト事業)

(単位:円)

実施年度	事業名	事業概要	総事業費	交付金充当経費
令和01	山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト	夜のイベント開催による宿泊エリアの魅力向上、体験サービスの磨き上げ、集客サービスを統括する仕組みづくり等。 2カ年目/3カ年	131,628,932	65,814,465
令和01	水の都松江まちのRe-project事業	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことによるエリアリノベーション。 1カ年目/3カ年	10,035,077	5,017,538
令和01	しまねに定着、回帰・流入するひとの流れづくりプロジェクト	●シティプロモーション推進事業 ●松江ファンクラブ事業 ●首都圏大学との関係づくり ●首都圏等との既存の「縁」深化 ●新聞広報「動き出す松江の関係人口」 1カ年目/3カ年	10,289,430	5,144,715
合計			151,953,439	75,976,718

地方創生拠点整備交付金事業(ハード事業)

(単位:円)

実施年度	事業名	事業概要	総事業費	交付金充当経費	
令和01	松江・森の演劇ゾーン整備計画	「しいの実シアター」を拠点とし、「平原会館・平原農村公園」「かやぶき交流館」も含めた「松江・森の演劇ゾーン」として位置づけ、整備した。	47,074,460	23,537,230	
令和01	松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業	「堀川遊覧船」の大手前乗船場を情報発信の拠点施設として整備した。民間活力を活用した季節に応じた『旬』な情報提供や周辺施設等への案内、物産品の展示・販売も行うほか、近隣商店街・団体などとのつながりを活かし誘導・回遊することができる仕組みづくりにも取り組み地域経済の発展、消費拡大にもつなげていく。	拠点整備交付金	47,160,780	19,846,990
			効果促進事業(ソフト事業)	3,247,244	1,623,622
平成30	「松江オープンソースラボ」を核とするオープンイノベーション推進事業	IT分野のコミュニティの拠点である「松江オープンソースラボ」をハード・ソフト両面で整備・機能強化を行った。これにより、これまで「Ruby City MATSUEプロジェクト」で実現してきた市内のIT企業、IT技術者、研究者、学生の交流を基盤としつつ、さらに圏域あるいはインドネシア州のIT企業やIT技術者、学生との交流を推進し、圏域の産業振興、経済交流を推進していく。	拠点整備交付金	19,656,000	9,828,000
			効果促進事業(ソフト事業)	4,571,100	2,285,550
平成29	水陸両用機を核にした中海振興プロジェクト	中海干拓事業で生じた約4haの未利用地の一部を再活用し、水陸両用機の昇降場、駐機場や運航の受付場所、サイクリスト向けの休憩所等や水鳥観察といった機能も加え、中海振興の拠点として整備した。	296,028,000	148,014,000	
合計			417,737,584	205,135,392	

1、事業名称	山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト	
2、事業主体	松江市・出雲市・米子市・境港市	
3、事業費 (令和01年度実績額)	総事業費 ※松江市事業分 (※交付金以外含)	131,628,932円
	交付金充当経費 ※松江市事業分	65,814,465円
4、事業概要	<p>中海・宍道湖・大山圏域に存在する既存の歴史・文化・自然遺産のブラッシュアップを図るとともに、ナイトタイムエコノミーを推進するため、夜のイベント開催などによって宿泊エリアの魅力を上向きさせる。観光地としての訴求ポイントを明確にした積極的な情報発信を通じて、国内外の観光宿泊者数の増加を図る。また、外国人に高い訴求力を持つであろう景観地や行事が、中長期的な将来の観光の柱として育成する取り組みや、体験サービスを磨き上げ、そのサービスの内容・予約状況の確認、予約決済ができる環境を作るという、いわゆる“見える化”を行ったり、見える化したサービスを組み合わせることで単価の高い旅行商品を作成・PRしたりする集客サービス統括会社の機能を(一社)松江観光協会に持たせる仕組み作りを行う。</p> <p>【具体的事业内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜の神楽公演事業 ・水の都音楽祭・まちかどコンサート事業 ・宍道湖の夕日のブランディング・サンセットカフェ など 	
5、事業の計画期間	2018年4月 ～ 2022年3月	

6、総合戦略における基本目標と数値目標	<p>【基本目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特徴を生かした産業と雇用を創出する <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雇用創出数: 690人増 ●一次産業新規就業者: 45人/年 ●観光消費額: 75,000百万円
---------------------	--

7、本事業における重要業績指標(KPI)の成果						
	KPIの名称		事業開始前	平成30年度 増加分	令和01年度 増加分	令和02年度 増加分
KPI①	外国人観光宿泊客数 (単位:人)	目標値	—	5,000	10,000	20,000
		実績値	117,000	29,430	302	—
KIP②	外国人観光客消費額単価 (単位:円)	目標値	—	10,000	15,000	20,000
		実績値	130,653	580	6,707	—
KPI③	外国人観光客満足度 (単位:%)	目標値	—	50	10	10
		実績値	0	0	90	—
KPI④	実施したインバウンド対応メニューのうち満足度が8割以上のものの数 (単位:本)	目標値	—	3	10	15
		実績値	0	0	4	—

8、課題、今後の方針等
<p>(目標値未達の要因)</p> <p>日韓関係の悪化や、新型コロナウイルスの影響により、圏域内の国際便の運休やクルーズ船の寄港キャンセルが相次ぎ、外国人観光客が激減したことにより、観光消費額も減少した。また、インバウンド対応メニューに対応した体験サービス作りには、実施主体や地元の運営体制及び協力などインバウンド対応する仕組みづくりまでのステップとして当初想定していたものより時間と労力を要するため、国内観光を優先した取り組みから脱却できないのも要因の一つである。</p> <p>(課題)</p> <p>インバウンド対応のコンテンツ造成には受入側の体制がまだ不十分であり、域内の外国人観光客数も少ないため、インバウンド意識が薄くソフトしにくい状況があった。また、体験サービスを提供するためのコスト面の課題などもある。さらに、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から中止・縮小等せざるを得ない状況となった。当面の間、インバウンドへの影響も続くと思込まれることから、新たな観光スタイルを提供していかなければならない。</p> <p>(今後の方針)</p> <p>国内観光を優先しつつ、インバウンドに転用できるように事業展開をしていく。また、本事業内の各メニューで実施しているものが点となっているため、面として機能していくため計画的に進めていく。観光協会が収入を確保しながら、戦略的に事業を回す仕組みを民間事業者の知識を活用して実施していく。</p>

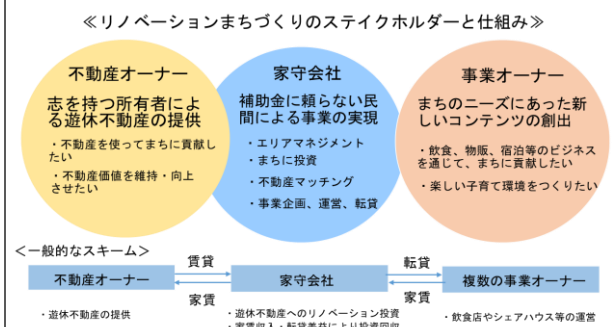


1、事業名称	水の都松江のまちの「Re-project」～若者がチャレンジできるまちづくり～	
2、事業主体	松江市	
3、事業費 (令和01年度実績額)	総事業費 (※交付金以外含)	10,035,077円
	交付金充当経費	5,017,538円
4、事業概要	<p>松江市都市マスタープランに位置付けた「既存ストックの有効活用」の具体策として取り組むもの。 若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリアリノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできるような「若者が主役となる持続可能なまち」を目指し事業を展開する。</p> <p>【具体の事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアリノベーションに関する実践講座の開催 ・「まちのトレジャーハンティング」、「リノベーションスクール」の開催 ・「リノベーションまちづくりガイドライン(仮)」の策定 ・遊休不動産実態調査 	
5、事業の計画期間	2019年4月 ～ 2022年3月	

6、総合戦略における基本目標と数値目標	<p>【基本目標】 ○ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住みやすさの実感割合:95% ●健康寿命(65歳平均自立期間):女性21.66年、男性19.06年
---------------------	--

7、本事業における重要業績指標(KPI)の成果						
	KPIの名称		事業開始前	令和01年度増加分	令和02年度増加分	令和03年度増加分
KPI①	本事業及び波及効果による新規雇用者数 (単位:人)	目標値	—	10	10	10
		実績値	0	8	—	—
KIP②	本事業及び波及効果による遊休不動産の実事業化件数 (単位:件)	目標値	—	5	5	5
		実績値	0	6	—	—
KPI③	家守会社等の民間まちづくり会社の設立件数 (単位:件)	目標値	—	1	1	1
		実績値	0	0	—	—

8、課題、今後の方針等
<p>(目標値未達の要因) 令和元年度に開催した「まちのトレジャーハンティング@松江」にローカルトレジャーハンターとして関わってもらった建築士を中心に、家守会社の設立を検討しているグループができたが、法人化に至らなかった。</p> <p>(課題) 新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たない中でも事業を着実に進めるため、講演会やリノベーションスクールは、Zoom等を活用してオンラインの場面を増やすなど、安全面に配慮しながら取組を進める必要がある。</p> <p>(今後の方針) 講演会やリノベーションスクールを引き続き開催し、民間プレイヤーの育成と不動産オーナーの発掘を進めるとともに、民間プレイヤーによる家守会社などの民間まちづくり会社の設立を目指す。あわせて、金融、高等教育機関とのネットワークを構築し、家守会社を中心として、自立的に遊休不動産活用・事業化によるまちの活性化を図っていく。</p>



1、事業名称	しまねに定着、回帰・流入するひとの流れづくりプロジェクト	
2、事業主体	島根県・松江市・益田市・大田市・安来市・雲南市・奥出雲町・美里町・吉賀町海士町	
3、事業費 (令和01年度実績額)	総事業費 ※松江市事業分 (※交付金以外含)	10,289,430円
	交付金充当経費 ※松江市事業分	5,144,715円
4、事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●シティプロモーション推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション動画作成、子育てフリーペーパー作成 ●松江ファンクラブ事業 <ul style="list-style-type: none"> ・松江ファンクラブアプリ「ぎゅっと松江」開発 ●首都圏大学との関係づくり <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学から留学生インターンシップ、体験活動プログラム ●首都圏等との既存の「縁」深化 <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏で活躍する松江出身経営者等と地元若手経営者との意見交換会 ●新聞広報「動き出す松江の関係人口」 	
5、事業の計画期間	2018年4月 ～ 2022年3月	

6、総合戦略における基本目標と数値目標	<p>【基本目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Uターン者数:1,445人増 ●市内企業に就職する生徒・学生数:高校生 266人/年、大学生等 435人/年 ●松江ファンクラブ会員数:10,000人
---------------------	---

7、本事業における重要業績指標(KPI)の成果						
	KPIの名称		事業開始前	令和01年度増加分	令和02年度増加分	令和03年度増加分
KPI①	年間Uターン者受入数 (県外からの転入者のうち 5年以上島根に住む予定 の者) (単位:人)	目標値	—	4,127	4,227	4,327
		実績値	4,027	3,618	—	—
KIP②	新規高校卒業就職者の 就職3年後の定着率 (単位:%)	目標値	—	0.40	0.40	0.40
		実績値	60.10	0.70	—	—

8、課題、今後の方針等
(目標値未達の要因) Uターン者数は、都市部の雇用環境の改善などもあり、減少傾向にあると考えている
(課題) 若い世代の移住鈍化
(今後の方針) ウェブを活用した移住相談やセミナーで移住希望者の関心の持続、都会地からの人材を農林大学校に受け入れるコース新設など、分散型社会への転換を見据えた対策を図る



1、事業名称	松江・森の演劇ゾーン整備計画		
2、事業主体	松江市		
3、事業費 (令和01年度実績額)	拠点整備交付金	総事業費 (※交付金以外含)	47,074,460円
		交付金充当経費	23,537,230円
	効果促進事業 (ソフト事業)	総事業費 (※交付金以外含)	—
		交付金充当経費	—
4、事業概要	<p>松江市八雲町平原地区を美しい山々や森林・農村風景を舞台と見立て、評価の高い「しいの実シアター」を拠点とし、「平原会館・平原農村公園」「かやぶき交流館」も含めた「松江・森の演劇ゾーン」として位置づけ、整備を進める。</p> <p>「しいの実シアター」を、NPO法人、市民、行政など多様な主体が関わる演劇の拠点施設として、事務所機能などの充実を図る。あわせて平原会館に隣接する「平原農村公園」の再整備を行うことで、仮設舞台の設置、マルシェの開催、駐車場利用など多目的での使用を可能にするもの。</p> <p>【具体の事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八雲林間劇場(しいの実シアター)のアトリエ兼倉庫を事務所棟に回収 ・八雲林間劇場敷地内に倉庫棟及び小屋棟を新築 ・平原農村公園地盤改良工事 		
5、施設整備の実施期間	2019年4月 ～ 2020年3月		

6、総合戦略における基本目標と数値目標	<p>【基本目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Uターン者数:1,445人増 ●市内企業に就職する生徒・学生数:高校生 266人/年、大学生等 435人/年 ●松江ファンクラブ会員数:10,000人
---------------------	---

7、本事業における重要業績指標(KPI)の成果								
	KPIの名称		事業開始前	令和01年度増加分	令和02年度増加分	令和03年度増加分	令和04年度増加分	令和05年度増加分
KPI①	「森の演劇ゾーン」演劇公演観客数 (単位:人)	目標値	—	84	4,100	-4,000	100	4,400
		実績値	816	0	—	—	—	—
KIP②	「森の演劇ゾーン」演劇公演ボランティアスタッフ人数 (単位:人)	目標値	—	7	240	-200	0	250
		実績値	103	0	—	—	—	—
KPI③	「森の演劇祭」来場者数 (単位:人)	目標値	—	0	486	0	0	986
		実績値	12,514	0	—	—	—	—

8、課題、今後の方針等
<p>(目標値未達の要因)</p> <p>令和2年4月から施設の供用を開始しているため、まだ重要業績指標で成果を表すことはできない。</p> <p>(課題)</p> <p>3年に1度開催している「松江・森の演劇祭」の開催や、公演事業などを通じた演劇スタッフの雇用・育成や、県外・海外へのPRなどソフト面の強化。</p> <p>(今後の方針)</p> <p>施設整備が完了したことで、平原地区一帯をコンパクトな「森の演劇ゾーン」と位置づけ、しいの実シアターを中心とし、平原会館・平原農村公園・かやぶき交流館を含め、恵まれた自然環境の中で、演劇を中心とした芸術文化の拠点づくりを推進する。新型コロナウイルスの影響により、令和2年度に開催予定であった国際演劇祭「松江・森の演劇祭」を2年延期とした。令和4年度開催に向けて準備を進めていく。</p>



事務所棟



休憩棟



倉庫棟



平原農村公園

1、事業名称	松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業		
2、事業主体	松江市		
3、事業費 (令和01年度実績額)	拠点整備交付金	総事業費 (※交付金以外含)	47,160,780円
		交付金充当経費	19,846,990円
	効果促進事業 (ソフト事業)	総事業費 (※交付金以外含)	3,247,244円
		交付金充当経費	1,623,622円
4、事業概要	<p>松江観光の核である「堀川遊覧船」の大手前乗船場について、情報発信機能の向上や掲示物の多言語化を実施する。また民間活力を活用した季節に応じた『旬』な情報提供や周辺施設等への案内、物産品(地元産の酒・そばなど)の展示・販売も行うほか、近隣商店街・団体などとのつながりを活かし誘導・回遊することができる仕組みづくりにも取り組み地域経済の発展、消費拡大にもつなげていく。その他、外国人観光客を含む不特定多数の観光客が快適に利用できるように環境整備なども実施していく。</p> <p>【具体の事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォメーションコーナー、ショップ新設 ・環境整備(トイレ整備、外構工事) ・情報発信機能強化(大型モニター) ・多言語対応サイン整備 ・待合スペースの拡充強化 		
5、施設整備の実施期間	2019年4月 ~ 2020年3月		

6、総合戦略における基本目標と数値目標	<p>【基本目標】</p> <p>○若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特色を生かした産業と雇用を創出する</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雇用創出数: 690人増 ●一次産業新規就業者: 45人/年 ●観光消費額: 75,000百万円
---------------------	---

7、本事業における重要業績指標(KPI)の成果								
	KPIの名称		事業開始前	令和01年度増加分	令和02年度増加分	令和03年度増加分	令和04年度増加分	令和05年度増加分
KPI①	観光入込客数(外国人観光者含む) (単位:万人)	目標値	—	20	30	25	30	27
		実績値	968	0	—	—	—	—
KIP②	施設利用者数(観光情報拠点施設) (単位:人)	目標値	—	1,000	1,500	1,000	1,500	1,000
		実績値	143,000	0	—	—	—	—
KPI③	施設利用者の満足度(観光情報拠点施設) (単位:%)	目標値	—	50	60	70	80	90
		実績値	0	0	—	—	—	—

8、課題、今後の方針等
<p>(目標値未達の要因)</p> <p>令和2年4月から施設の供用を開始しているため、まだ重要業績指標で成果を表すことはできない。</p> <p>(課題)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、周辺の店舗や民間企業に対して、本施設を観光情報発信の施設として活用できることを広く周知できていないため、状況を見ながら周知を図っていく。</p> <p>(今後の方針)</p> <p>官主導でも松江城周辺の観光施設等を広くPRしていくとともに、周辺の店舗や民間企業も主体的にこの施設を観光情報発信の拠点施設として活用し、PRすることにより、観光客の回遊性を高め、観光消費額の拡大につなげていく。また、周辺の複数ある事業者の組合・商店街などと一体となって、本施設を活用していく。</p>



1、事業名称	「松江オープンソースラボ」を核とするオープンイノベーション推進事業		
2、事業主体	松江市		
3、事業費 (平成30年度実績額)	拠点整備交付金	総事業費 (※交付金以外含)	19,656,000円
		交付金充当経費	9,828,000円
	効果促進事業 (ソフト事業)	総事業費 (※交付金以外含)	4,571,100円
		交付金充当経費	2,285,550円
4、事業概要	IT分野のコミュニティの拠点である「松江オープンソースラボ」をハード・ソフト両面で整備・機能強化を行い、これまで「Ruby City MATSUEプロジェクト」で実現してきた市内のIT企業、IT技術者、研究者、学生の交流を基盤としつつ、さらに圏域あるいはインドネシア州のIT企業やIT技術者、学生との交流を推進し、圏域の産業振興、経済交流を推進していく。		
5、施設整備の実施期間	平成30年4月～平成30年12月		

6、総合戦略における基本目標と数値目標	<p>【基本目標】</p> <p>○若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特色を生かした産業と雇用を創出する</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雇用創出数:690人増 ●一次産業新規就業者:45人/年 ●観光消費額:75,000百万円
---------------------	--

7、本事業における重要業績指標(KPI)の成果								
	KPIの名称		事業開始前	平成30年度増加分	令和01年度増加分	令和02年度増加分	令和03年度増加分	令和04年度増加分
KPI①	松江市内ソフト系IT企業に従事するRuby認定技術者数 (単位:人)	目標値	—	0	20	25	25	30
		実績値	225	0	0	—	—	—
KIP②	施設でのワークショップ、ハッカソンの年間開催数 (単位:回)	目標値	—	0	10	12	15	15
		実績値	0	4	10	—	—	—
KPI③	施設利用者数 (単位:人)	目標値	—	0	300	250	250	250
		実績値	3398	0	672	—	—	—

8、課題、今後の方針等
<p>(目標値未達の要因)</p> <p>昨年度Ruby認定技術者資格を取得したエンジニアはいるが、同じく市内のRubyエンジニア数及びRuby認定技術者数も減少したため、差し引きの結果、実績値に対する増加分を得ることができなかった。</p> <p>(課題)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、現在施設の利用を制限(収容人数の半分)しており、大規模なワークショップなどの開催が難しいことから、施設利用者数が減少する可能性がある。</p> <p>(今後の方針)</p> <p>市内のエンジニア同士による勉強会などに加え、オンラインを通じて市外のコミュニティやイベントと連携していくように取り組む。</p> <p>また、同施設で行うイベントなどをオンライン配信し、これまで参加できなかった市外在住者も本市のコミュニティ活動に参加できるように取り組む。</p> <p>これらの取り組みを通じて、市外在住者に対し「Rubyの街」というシティブロモーションと魅力化向上に取り組む。</p>



<ハッカソン「松江 City Hack!!」の様子>

1、事業名称	水陸両用機を核にした中海振興プロジェクト		
2、事業主体	松江市		
3、事業費 (平成29年度実績額)	拠点整備交付金	総事業費 (※交付金以外含)	296,028,000円
		交付金充当経費	148,014,000円
	効果促進事業 (ソフト事業)	総事業費 (※交付金以外含)	—
		交付金充当経費	—
4、事業概要	中海干拓事業で生じた約4haの未利用地の一部を再活用し、水陸両用機の昇降場、駐機場や運航の受付場所、サイクリスト向けの休憩所等や水鳥観察といった機能も加え、中海振興の拠点として整備した。		
5、施設整備の実施期間	平成29年3月 ~ 平成30年3月		

6、総合戦略における基本目標と数値目標	<p>【基本目標】</p> <p>○若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特色を生かした産業と雇用を創出する</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雇用創出数:690人増 ●一次産業新規就業者:45人/年 ●観光消費額:75,000百万円
---------------------	--

7、本事業における重要業績指標(KPI)の成果								
	KPIの名称		事業開始前	平成28年度増加分	平成29年度増加分	平成30年度増加分	令和01年度増加分	令和02年度増加分
KPI①	施設利用者数(水陸両用機の搭乗者、サイクルステーションの利用者、野鳥観察やマリンスポーツなど、当該施設に訪れる人数)(単位:人)	目標値	—	0	500	4,000	1,500	1,500
		実績値	0	0	0	1,929	2,798	—
KIP②	水陸両用機搭乗者数(商業運航に係る全国の搭乗者数)(単位:人)	目標値	—	2,000	4,000	4,000	3,000	3,000
		実績値	0	1,300	716	1,142	1,312	—
KPI③	中海宍道湖大山圏域のビジネスマッチング件数及び観光商品化件数(単位:件)	目標値	—	0	50	50	50	50
		実績値	450	6	255	0	12	—

8、課題、今後の方針等
<p>(目標値未達の要因)</p> <p>・ふるさと納税の返礼品に商品化するなどPRIに努めたが、本格運行を始めて1年目であり、また、水陸両用機の営業運航は、国内2地域目であることから、まだ認知度が低く、搭乗者の増加、観光商品化等に繋がりにくかった。</p> <p>(課題)</p> <p>・運航は天候状況に影響を受けることから、安定した運航が難しい。このため、搭乗者数の増に繋がりにくい。</p> <p>(今後の方針)</p> <p>・施設の有効利用や交流人口の増加のため、水陸両用機の集客について、運航会社と連携して、市民や旅行会社などへの広報や営業を更に強化するとともに、サイクリングや野鳥観察など、水陸両用機以外での利用者の拡大を図る。</p> <p>・また、中海や尾道を起点として、隠岐空港や但馬空港などへの地域間移動としての可能性について、運航会社と連携して検討して行く。</p>

